

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和6年12月9日（月） 発行人：校長 森内 秀学

「人権意識」と「思い込み」

「あの人は人権意識がある」とか「ない」とか言うことありませんか？ 私は、「これはこうでしょ？」という「思い込み」が前面に出ているとき、つい、人権意識がない考え方になっている気がします。みなさんはどうですか？



さて、11月26日～12月6日は、本校が設定した人権週間でした。今年度は、「人権集会実行委員会」を立ち上げ、立候補した11人の子どもたち（写真手前とステージ左）を中心に、集会当日に向けて様々な取組を行いました。

右は、一つ目の取組「なかよしのハート」。右下に用意されたピンクの小さなハートに、友達のよさや友達への感謝の言葉を書き、白いハートに貼る仕組みです。校内の廊下に数か所設置してあります。



左は、二つ目の取組「人権標語」。各学級で人権について学び、捉えた言葉を基に川柳を作

りました。校内に掲示し、意識啓発に役買っています。

そして人権集会当日。実行委員が叩いた手の数の分だけ、学年が重ならないようにして集まるゲームをしました。分け隔てなく、誰とでも仲良くできるように



することが、人権意識を高めるために大切だよ、という実行委員からのメッセージでした。

「人権」と聞くと、なんだか固く、難しいことのようにも思えます。でも、こうした「思い込み」を一つ一つなくしていくよう努力することが、人権意識を高めることにつながるのだということを、子どもたちのアイデアから学ぶことができました。

少年の主張大会

12月1日（日）は、とぎつカナリーホールで少年の主張大会が行われました。本校の代表者は、「千羽鶴のその後」という題で話した4年生の陣川愛衣さんと、「地域のチカラ」という題で話した5年生の宮崎仁菜さんの二人でした。

学校でリハーサル（左）を終えて臨んだ本番は、ゆっくりはっきり大きな声で自分の主張を伝えることができていました。



志田館長の講評で、陣川さんは、「テーマの視点の面白さ、それを追求する意欲、平和への思い」を称賛され、宮崎さんは、「子どもの発想を実現し、力を貸してくれる地域の力」の素晴らしさと、そこに目を向けて主張作文を書いた点を称賛されました。さすがですね。